

2010年3月1日発行

秋田大学

国際交流センターニュース 第2号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimmu.akita-u.ac.jp

- ・中国の協定校、蘭州大学を訪問 石尾俊二 (1)
- ・エッセイコンテストで留学生を表彰 (1)
- ・未来の秋大生ベトナムから 村上東 (2)
- ・国際連携コーディネーター、一堂に (2)
- ・北東北国立3大学合同合宿研修会 (2)
- ・秋田の豊かな冬の文化を体験 (3)
- ・スタッフ紹介2 田村悟 (3)
- ・専任教員からひとこと 牲川波都季 (3)
- ・センター長退任にあたって 田中俊誠 (4)
- ・お知らせ with some English Information (4)

中国の協定校、蘭州大学を訪問

石尾俊二

2009年11月1日から11月5日に蘭州大学を訪問しました。蘭州大学では、景副学長訪問の後、余外事処処長を中心に教育交流の進め方について懇談を行い、ついで日本語学科への授業参加(牲川、内田)、化学化工学院での講演(菅原)、磁学磁性材料研究所での研究交流(石尾)等を実施しました。



蘭州大学には秋田大学を経験した多くの教育・事務スタッフがいます。教育文化学部を卒業された劉講師(日本語学科)、VBL客員研究員として来学された王教授(物理科学与技術学院)、国際交流センターで事務研修をされた李外事処スタッフをはじめとする多数の方々です。この方々の秋田滞在の思い出と人的ネットワークが大学間交流の大きな礎になっていることを強く感じました。

2010年度には教育文化学部、工学資源学部に特別聴講学生3名の留学が決定しており、4月には蘭州大学学長の本学訪問も予定されています。

例年がない早い時期の北京の降雪のために飛行機キャンセルなどハプニングもありましたが、大学間教育研究交流を促進する有益な蘭州大学訪問でした。

(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki—国際交流センター、内田昌功：UCHIDA, Masanori—教育文化学部日本・アジア文化講座、菅原勝康：SUGAWARA, Katsuyasu—工学資源学部環境応用化学科、石尾俊二：ISHIO, Shunji—工学資源学部材料工学科)

左写真：日本語クラスと授業風景(講師：内田、牲川)

エッセイコンテストで4名の留学生を表彰

2010年2月15日、国連大学私費留学生育英資金貸与事業(UNU-FAP)受給生によるエッセイコンテストの表彰式が行われ、14名の応募者の中から選ばれた入賞者4名に対し、それぞれ賞金(最優秀賞5万円、優秀賞3万円)と図書カード(5,000円)が授与されました。

昨年度までUNU-FAPが全国の受給生を対象に開催していたエッセイコンテストが終了したため、今年は「秋田大学と私」というテーマで、国際交流センターが独自にエッセイコンテストを開催しました。

今回の受賞者は、最優秀賞が「秋田大学と私の絆」杜慧さん(中国)、優秀賞が「ガンバリたくなる大学」徐文徳さん(中国)、「日本の留学生が私に役に立ったことを教えた」グエン・ティー・スエンさん(ベトナム)、「あなたに

とって大学というのはどんなところですか」ハー・ト・ラムさん(ベトナム)の3名でした。おめでとうございます。



未来の秋大生ベトナムから

村上 東

今回のベトナム出張にはふたつの目的がありました。日本学生支援機構主催の「日本留学フェア」に参加し、ベトナムの大学生に秋田大学のことを知ってもらうこと、そして、3年前から留学生を本学に送りこんでいるホーチミン市のドンズー（漢字では「東遊」と書き、独立運動を目指した若者が日本で学んだ故事にちなみます）日本語学校で独自に大学説明会を開くことでした。

幸い、どの会場にも多くの学生が詰めかけ、私たちは真剣な質問の嵐に圧倒されっぱなし。「留学フェア」のハノイ会場では新しい姉妹校ハノイ工科大の諸君も来てくれました。こうした熱心な留学生がもっともっと秋田大で勉強ができるよう、まだまだ足りない



い奨学金や住環境の整備が求められていることを痛感した4日間でした。

高等教育の生き残りを賭け、熾烈な留学生獲得競争が世界規模で進んでいます。文科省の号令を待っては、国内でも、また韓国や台湾にも負けてしまうことは目に見えています。（MURAKAMI, Akira — 教育文化学部欧米文化講座）

※「日本留学フェア」（写真）は2009年11月21日（ハノイ）と22日（ホーチミン）、ドンズー日本語学校での説明会は11月23日（ホーチミン）で開催され、田島克文准教授（工学資源学部）、牲川波都季准教授（国際交流センター）が同行して広報活動を行いました。（国際交流センター）

国際連携コーディネーター、世界6地域から一堂に

2009年度の補正予算により採択された「教育研究高度化のための支援体制整備事業」により国際交流センターにおいてもいろいろな事業を行うこととなりました。その事業の一つとして、国際連携コーディネーター6名を2009年10月1日から委嘱することができました。

本学が、国際戦略の拠点として今後積極的に交流を進めていきたいとする代表的な国（地域）として、北京、ベト



ナム、タイ・インドネシア、モンゴル、カナダを中心とした北米、台湾にそれぞれ1名のコーディネーターを配置しました。

これまでの活動状況を踏まえて、6人の国際連携コーディネーターが12月22日秋田大学に集まり、国際交流センター企画会議委員及びスタッフに囲まれて報告会を開きました。これは、本学と協定校との連携強化、協定校の拡大、留学生受入れ拡大、共同研究推進などに繋がる広報活動の在り方等に係る意見交換を行い、本学の更なる国際交流推進を図ることを目的として開催したものです。

各コーディネーターからは意欲的な活動報告がなされ、留学生の受入れ拡大及び協定校の拡大に繋がることが期待されました。

（石川勉：ISHIKAWA, Tsutomu — 国際交流課長）

北東北国立3大学合同合宿研修会

2009年11月21日（土）から3日間、あきた白神体験センター（八峰町）にて、秋田・弘前・岩手の3大学から留学生37名、日本人学生21名の計58名が参加して合宿研修会が行われました。

この研修会は、「合同合宿研修を通じて外国人留学生と日本人学生がお互いの交流を深め、多文化状況で課題に取り組み、コミュニケーション能力を高める」ということを目的として、毎年行われているもので、今年度は秋田大学が当番校でした。

初日は豆腐づくり等の体験プログラムに参加、2日目は「私の幸せ」をテーマに、4分間の無声映画の構想・撮影、そして発表を行いました。各班とも色々なアイデアを出しあい、様々な工夫を凝らしながら、映画の作成に取り組みました。

短期間でしたが、学生からは、様々な文化を学ぶことが出来た、留学生から刺激を受けもっと勉強を頑張ろうと思ったなどの感想が聞かれました。

（国際交流センター）

秋田の豊かな冬の文化を体験

● 留学生「日本のもちつき」で地域交流

三吉南町, 田中町, 大沢町のみなさんの協力を得て, 2009年12月28日に大学会館1階で, 留学生体験事業「日本のもちつき」を実施しました。

ほとんどの留学生にとって, 今回が生まれて初めてのもちつきでした。留学生が重いきねを振り下ろすと, 会場からは「よいしょ」と大きな歓声が上がりました。つきあがったお餅は, あんこ・きなこ・ずんだで味付けをしたり, お雑煮にしたりして, 集まった約80名の地域住民や留学生に振る舞われました。



● 留学生スキー合宿研修会

2010年2月20日から21日, 田沢湖スキー場を会場に留学生スキー合宿研修会を実施しました。

初日はゲレンデで悪戦苦闘していた留学生たちでしたが, インストラクターのていねいな指導により, 2日目後半には元気にゲレンデを滑り降りる姿が見られました。また夜には, 火振かまくらや紙風船上げなど地方の冬まつりを見学できたほか, 花火やジャンプのアトラクションなどもあり, 多くの留学生が日中の疲れを忘れ, 雪国ならではの多彩な催しに歓声を上げていました。



● なまはげ柴灯まつりを見学

2010年2月13日, 秋田の伝統行事体験旅行として「なまはげ柴灯まつり」を実施しました。

祭りの会場となる男鹿市北浦の真山神社では, ときおり小雪が舞う中で繰り広げられる, なまはげ太鼓, なまはげ踊り, なまはげ下山の勇壮な様子などを見学しました。また, 祭りの終盤には, なまはげと記念撮影をするなど, 留学生は秋田の冬の行事を思う存分楽しむことができたようでした。



国際交流センター・スタッフ紹介 2

● 田村悟……………TAMURA, Satoru

留学生業務を担当して早5年が過ぎました。本稿への投稿も, この機会を逃すとセンターニュースに載らない可能



性が一番高いスタッフということで, お鉢が回ってきたものと思います。5年間, 曲がりなりにも大過なく国際交流の仕事に従事でき, 嬉しく思っております。お陰様で, 留年した学生の入学から卒業まで見届けることができそうです。(国際交流課主査—留学生担当)

専任教員からひとこと

牲川波都季

国際交流センターは今年度, 文科省の教育研究高度化支援事業に採択され, 国際交流シンポジウム開催, 国際連携コーディネータ配置, 海外研修支援, 国際交流関連事業支援など, 多くの国際的事業を実現しました。さらに, 秋大生と留学生が集う多文化交流ラウンジやテレビ会議システムの設置準備も進めています。今年度は, 人と人, 大学と大学, 地域と地域をつなぐ, ネットワークを立ち上げた一年でした。

来年度以降の課題は, 立ち上げたネットワークを, 太く長く, 実質をもつものにしていくことです。そのためには, 新規ネットワークを作らない, その代わりに現在あるネットワークを大事にするという, 消極的選択をあえて行う勇気も必要でしょう。交流関係は事業ではなく人と人によって作られるということを, 新年度に向け改めて忘れないようにしたいと思います。

(SEGAWA, Hazuki—国際交流センター准教授)

国際交流センター長退任にあたって

田中俊誠



率直に言って、「実に楽しい仕事であった」と振り返っております。この役に就くことを勧めてくれました吉村昇学長に感謝申し上げます。

産婦人科教室と国際交流センター、言わば水と油のように相容れない組織・機構の間に身を置いて、両者が担うべき役割を存分に発揮できるように舵取りできるのか、との不安を抱いたままお引き受けしました。不幸にも、不安が的中してしまいました。両者に多大の迷惑をかけておきながら、楽しかったとは不届き千万、とのお叱りを受けるのは必至であります。でも楽しかったのであります。

大学病院と大学の間を走るバスから眺める景色には、目を見張る何物もないのですが、癒されました。乗る度に小

旅行の気分を味わうことができました。本道地区の勤務だけでは、到底味わうことができなかった「手形の空気」に触れる機会を持てたのも喜びでした。さらに、手形におきましては、1. 大学がいかんにして機能しているか、どうして運営されているか、2. 他学部にも優秀で、素晴らしい教員が多くいる、3. 飲み会は、教室の仲間と呑むのとは違う雰囲気である、4. いずれの国からの留学生も、日本の学生に劣らず学問に対して情熱を持っている、そして将来彼らは母国と日本ならびに秋田との友好の架け橋になってくれる、等を皮相的ではありますが知ることができました。定年退官後いずれの道に進んでも、これらはどこかで必ず生かされる貴重な経験になる、と確信しております。

2年間に亘り、迷惑をお掛けしました双方の関係者にお詫びを申し上げ、2年間を楽しく過ごさせていただきました関係の方々に感謝申し上げます、退任の言葉とさせていただきます。(TANAKA, Toshinobu—国際交流センター長)

お知らせ

● 8月にカナダ西海岸で英語を学びませんか

国際教養大学では、2010年8月に4週間カナダ・バンクーバー近郊へ語学留学に行く学生を募っています。

ブリティッシュ・コロンビア州の州都、ビクトリア市内にある州立ビクトリア大学のイングリッシュ・ランゲージ・センター(ELC)で、毎日午前8時半から12時半まで勉強します。授業料、個室宿泊費、食費を合わせて4週間で約23万円のプログラムです。

4月に秋田大学での説明会を開催し、応募締め切りを5月の連休明けに予定しています。興味のある方は「UVic ESL」をキーワードに資料を集めるなど、準備をお願いします。

● 4月から定期的に留学生の出席確認を行います

2010年4月から、留学生の出席状況や在留資格の確認など、身上把握の徹底を図るため、月に1回、出席確認を行います。具体的には、留学生全員に手帳を配付し、手形地区の留学生は国際交流課、本道地区の留学生は医学系研究科・医学部学務課へ出向き、毎月15日までに出席確認を受けてもらいます。

これにより、留学生が抱える悩みなどを聞く機会を増やし、生活相談の充実を図ります。留学生の皆さんは、毎月の出席確認の日を相談日と捉え、気軽にご相談ください。

● Monthly Attendance Check Starts in April 2010

Starting in April, international students will be given a handbook and asked to bring it to the international office of each campus by the fifteenth day of each month. This is to see students' mental and health problems as well as their school attendance and visa status.

● 国際交流センターが一般教育1号館へ移転します

4月上旬に国際交流センターが一般教育1号館の2階へ移転します。教務担当などが現在入っている場所です。移転先では、多文化交流ラウンジを設置し、世界各国の観光案内や数ヶ国語の語学教材などを利用できるよう準備しています。

● International Center Moves to Pan-ichi Building

International Center will move to the second floor of the First General Education Building in early April. We will soon have a multicultural lounge with books and videos on places in the world. We are also preparing hundreds of study materials on Japanese, English, Chinese, Korean, Russian, French, German, Hebrew, Greek and Latin.

秋田大学の留学生数 (2010年3月1日現在)

▶ 学部生：65名

▶ 大学院生：35名

▶ 交換留学生・研究生等：19名

計：119名